



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次	
式辞と挨拶要旨	2
学園創立記念等	3
防災一斉訓練	4
大学祭、体育祭	5
高校卓球部活躍	6
社会、市民講座	7
愛名会便りほか	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel (0565) 48-8177

厳粛な中、華やかに開学50周年を祝う ―名古屋市内で愛知県知事ら来賓を迎えて開催―

愛知工業大学は十一月十四日、開学五十周年を祝う式典を名古屋市西区のウエスティンナゴヤキャッスルで挙行、節目を祝うとともに次の五十年へ向けて、新たな一歩を踏み出しました。五十周年式典は記念式典、記念講演会、祝賀会に分かれて華やかなうちにも厳粛に行われました。出席者数は約四百五十人に上り、豊田章一郎トヨタ自動車(株)名誉会長はじめ教育、政財界から大勢のトップが顔をそろえ、五十周年を祝うふさわしい式典となりました。



大勢の来賓を迎えて盛大に行われた開学50周年記念式典

式典

国歌斉唱に続き、後藤泰之学長が「次の五十年へ向け地域の特性を活かした教育研究の充実を図り、学生一人ひとりのやる気を引き出す実学教育を、さらに発展させていきます」と式辞を述べ、母体である名古屋電気学園の後藤淳理事長が「今後も先人の労苦を忘れずに、全教職員一丸となって常に時代の求める人材育成に信念を持ち取り組んでいきます」と、あい

名誉博士の学位記贈呈

さつしました。この後、文部科学大臣(代理・小松親次郎審議官)、神田真秋愛知県知事、大沼淳日本私立大学協会長、中国の南京市にある本学と姉妹校の胡凌雲東南大学書記が祝辞を述べました。

また、一九九一(平成十一)年四月から名古屋電気学園理事を務める鈴木礼治前愛知県知事に、学長から本学の発展に多大な功績があったとして



学長から名誉博士の学位記を贈られる鈴木礼治前愛知県知事(左)

名誉博士の学位記が贈られました。鈴木氏は「身に余る光栄です。この名誉に恥じないよう精進していきます」と、お礼の言葉を述べました。本学後援会、同窓会・瑞若会、名古屋電気学園支援組織の愛名会、東南大から記念品の目録贈呈等があり、記念式典を終えました。

木村氏が記念講演



文部科学大臣(代理) 小松親次郎審議官

長木村孟(きむら・つとむ)氏(写真)氏が「これからの(工学)教育を考える」をテーマに講演。その中で、明治時代に政府お雇い外国人の一人、英

祝賀会



祝賀会に花を添えた阿藤快氏(右端)、海老瀬はなさん(中)

国人ヘンリー・ダイアが工学教育で欠かせない実地教育を世界に先駆けて構築したものの、すぐに学理重視へ移行、現在に至っていると話し、最後に「教育の対象が人間であることの基本に戻る」と、締めくくりました。

会場は、開学五十周年を祝う大勢の来賓らで埋まりました。記念事業として製作され、六月に全国公開された映画「築城せよ!」に出演した俳優の海老瀬はなさん、阿藤快氏も出席、祝辞を述べました。名古屋出身で映画「20世紀少年」等を手がけた堤幸彦映画監督のトークショーもあり祝賀会を盛り上げました。

理事長あいさつ、学長祝辞の要約は次ページに掲載。

後藤淳理事長



愛知工業大学の開学五十周年式典にあたり母体の学校法人名古屋電気学園理事長として一言ご

あいさつを申し上げます。今から百年近く前の大正元(一九一二年)年、創立者の後藤三郎先生が当時、工業化を目指す我が国の新たなエネルギー源として著しい伸びをみせていた電気に着目し、電

愛知工業大学開学五十周年式典での後藤淳理事長あいさつ、後藤泰之学長式辞の要約

後藤泰之学長

本日ここに、開学五十周年記念式典を盛大に開催できましたことは、愛知工業大学にとって大きな慶びであります。ご来賓、ご出席の皆様方にはお忙しい中、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。心から、厚くお礼申し上げます。



来、実学教育の実践、科学技術の

気技術者の不足、産業界からの人材養成に応えて、名古屋電気学講習所を設立したのが始まりです。間もなく、名古屋電気学校と改めて、産業界からのご支援を賜り、学校整備等を進め、今日の礎を築きました。

創立者の喬三郎先生が、大正十三(一九二四)年に逝去し、弱冠十九歳の後藤鉦二先生が校主となり、学校施設の充実等、現在に繋がる「基礎づくり」に心血を注ぎ、戦後の学制改革で中学、高校、短

大を次々に興し、昭和三十四(一九五九)年に中部地区初の工科系大学の開学を果たしました。

企業の即戦力となる人材を社会に次々に送り続け、「こんなところにもいる」と言われるほど、各分野での卒業生の活躍も目覚ましく、本学も高く評価されてきました。

それを受け継いできました。本学は今年、学部、学科を拡充し工科系総合大学として新たな一歩を踏み出しました。開学から今日までの歴史の積

50周年記念事業

学術フロンティア推進事業国際シンポジウム

み重ねと、人材の育成を通じまして、産業界に広く貢献してきました学園、大学のたゆまぬ努力で、この節目の日を迎えることができました。今後先人の労苦を忘れず全教職員一丸となり、常に時代の求める人材育成に情熱と信念を持ち、取り組んでいきます。

関係各位の一層のご指導、ご支援を心よりお願いしてごあいさつとさせていただきます。

を図るとともに、産業の発展や科学技術の進展に合わせ、加えて、地域の特性を生かした教育研究の充実を図っていきます。また、飛行機、自動車、ロボット等、具体的なテーマを掲げた教育プロジェクトの充実を通して、学生一人ひとりのやる気を引き出す実学教育を、さらに発展させていきたいと考えています。

愛工大・研究支援本部は開学五十周年記念事業として十月九日(十日)、八草キャンパス内で「学術フロンティア推進事業(継続)最終報告会国際シンポジウム」を開催しました。フランス、チェコ、スロベニア、タイ、インドからの研究者を含む約百二十人が出席。本学の研究プロジェクト「21世紀を支えるための材料の開発」が七年前に文部科学省の学術フロンティア推進事業に選定され、▽環境・材料グループ▽エネルギー・材料グループ▽情報・材料グループの三グループに分かれて、研究に取り組んできました。

振興を通して、社会の発展に貢献することを目指してまいりました。現在は「ものづくり」に必要な実学という観点から、従来の「工学」に加え「経営学」や「情報」に関する教育研究を行っています。本年四月からは、三学部、大学院二研究科という新しい体制となり、六千名を超える学生が学んでいます。豊田市の八草キャンパスには、総合技術研究所、地域防災研究センター、エコ電力研究センター等を設置し、産学連携に積極的に取り組んでいます。

少子化、製造業の空洞化、低迷する景気、回復しない雇用情勢等、大学を取り巻く状況は非常に厳しいものがあります。困難な状況だからこそ本学の独自性を生かし、限られた資源を有効に活用し、学生のやる気と潜在力を引き出す教育を引き続き積極的に実施しなければなりません。

そのためには、次の五十年に向けて、一層の充実、発展

研究支援本部は、研究プロジェクトが本年度で最終に加えて開学記念事業として「最終報告会国際シンポジウム」を開催しました。

学園創立97周年記念式典、平成21年度物故者法要

学園は11月10日、名古屋市千種区の愛工大名電高校内で「学園創立97周年記念式典」を行った後、「平成21年度物故者法要」を覚王山日泰寺でしめやかに営みました。



学園創立記念式典で永年勤続表彰者らを前に式辞を述べる後藤淳理事長

【創立記念式典】高校の講堂兼体育館・喬徳館を会場に、後藤淳理事長、後藤泰之愛工大学長ほか学園役員、永年勤続者、学園各設置校の教職員らが出席して行われました。表彰に先立ち、後藤淳理事長が式辞を述べ、学園設置校の愛工大、愛工大名電高の卒業生が今や10万人を超えるまでになった歴史の重みを語り、3年後の学園100周年に向けて、教職員の一層の努力を呼びかけました。

続いて永年勤続者の表彰が行われ、理事長から勤続35年、25年、15年の教職員一人ひとりに賞状と記念品が贈ら



謝辞を述べる林事務局参与

れました。受賞者を代表して学園事務局の林憲二参与が「経済低迷、少子化など教育界は厳しい局面に直面していますが、今後とも力を合わせ学園の発展に努めてまいりたいと思います」と、謝辞を述べました。

【表彰者は以下の皆さまです＝敬称略】

【勤続35年】18人

(大学) 工学部電気学科教授・飯吉僚▽同・徳田豊▽同・山田諄▽工学部応用化学学科教授・立木次郎▽同・山田英介▽工学部都市環境学科教授・青木徹彦▽同・正木和明▽同・四俣正俊▽経営学部経営学科教授・小原史朗▽工学部機械学科准教授・古市裕司▽工学部事務室事務長・立枕孝之▽附属図書館図書課課長・柏本純▽学生支援本部主査・河野ひとみ▽附属図書館図書課主査・紫藤針枝

(高校) 教諭・水野慎一郎▽同・八尺政文

(事務局) 参与・林憲二▽財務部部長・川出善晴

【勤続25年】3人

(大学) 学生支援本部教学センター学生課課長・岡森茂▽情報科学部情報科学科事務室係長・工藤洋子

(事務局) 管理部管財課技術職員・黒田憲一

【勤続15年】13人

(大学) 工学部電気学科教授・植田明照▽工学部応用化学学科教授・平野正典▽工学部機械学科教授・櫛田玄一郎▽工学部電気学科准教授・鳥井昭宏▽基礎教育センター准教授・村中正▽計算センター事務部係長・岡田宏行▽工学部都市環境学科事務室係長・宮川早和子

(高校) 教諭・加藤千晴▽同・福田博▽同・船本広之

(事務局) 総務部広報課係長・上田英貴▽総務部総務課付係長・竹松宏▽管理部調達課事務職員・出川可奈



後藤淳理事長（右から7人目）、学園、大学幹部らと記念写真に収まる永年勤続表彰者



覚王山日泰寺でしめやかに営まれた平成21年度物故者法要

【平成21年度物故者法要】名古屋市千種区の覚王山日泰寺本堂で営まれ、後藤淳理事長、後藤泰之学長ほか学園、各設置校教職員、学生・生徒、遺族、同窓会、後援会の関係者らが出席。読経の流れの中、後藤淳理事長ら出席者がこの1年間に亡くなった人たちのほか、学園関係の物故者のめい福を祈って次々に焼香しました。この後、後藤淳理事長が「学園、各設置校が今日あるのも亡くなった人たちの尽力のおかげです。そういう人たちを忘れずに皆さんも頑張っていたきたい」とあいさつしました。理事長、学長らは日泰寺近くにある学園墓地を訪れ、降り出した雨の中、慰霊碑の前で手を合わせていました。

東海・東南海地震に備え防災訓練 大学中心に各学園設置校で一斉に実施

緊急地震速報を活用し東海・東南海地震に備える防災訓練が十月二十九日、大学八草キャンパスほか学園各設置校で一斉に行われました。訓練は今回で四回目。大学では、学生らが消火器、屋内消火栓のホースを実際に使った消火訓練も同時に行われまし



訓練はこれまで訓練の判明した問題、点検事項

を洗いだすなどし東海・東南海地震が起きた場合に備えるのが目的です。大学の八草キャンパスでは、教職員、学生ら二千六百九十四人が参加。授業中の学生は、「地震です」の放送で一斉に机の下に潜り、「避難してください」の放送を受け、避難場所のサッカー場へ次々に向かいました。



現場に駆け付け、人がふんじた学生を担架で運び出す訓練



各校舎では、学生が教員の指導で屋内に設置されている消火栓からホースを取り出して、次々に放水、避難場所でも消火器で火を消す訓練に取り組みました。

地震で、やけど、骨折などの負傷者も出た。この想定で、ボランティアの学生が

写真上は、避難場所に向かう学生ら。写真下右は、屋内設置の消火栓からホースを取り出し放水する学生。同左は人がふんじた学生を担架に乗せるボランティアの学生（いずれも大学・八草キャンパスで）

キとこなして行いました。この後、サッカー場に避難してきた教職員、学生らを前に後藤泰之学長が、「今回の訓練の成果を、今後の地震対策に活かしていきたい」と講評し、訓練を終えました。愛工大名電高校、愛工大附属中学校、愛工大情報電子専門学校でも地域防災研究センターからの放送を受け、教職員、学生、生徒が机の下等に隠れた後、避難場所へ避難しました。いずれも冷静に対応し、トラブルはありませんでした。今回も県内の他大学、企業の教職員、防災担当者が見学に来た。正木和明（都市環境学科学教授）から説明を受け、訓練の様子を写真に撮るなどして行いました。

キャンパスの新シンボル「新1号館」建設

学園は、大学の開学五十周年記念事業として八草キャンパスの旧1号館跡地に新たに建設する「新1号館」（仮称）の地鎮祭を九月二十四日、同所で行いました。来年夏、同キャンパスの新シンボルの施設として誕生します。

建物は地上七階建て、延べ床面積約七千七百平方メートル。新1号館には今年四月新設の情報科学部が六、七階に入り、メディア制作環境を備えた施設、講義室のほか、キャリアセンター、学生の交流、憩いの場となるコミュニティエントランス、カフェなどが設けられます。地鎮祭には、後藤淳理



地鎮祭で鍬入れをする後藤淳理理事長

学園事務局、若水事務部の職員でつくる「エコ&セーフティー100日間無事故・無違反運動」チーム（代表・三宅覚学園安全運転管理者）が11月26日、無事故・無違反を達成したとして主催者の愛知県安全運転管理協議会から表彰（写真右）されました。チームは、三輪博美事務局長ら10人。協議会の運動参加呼びかけに学園、各設置校の交通安全意識の啓発になればと参加、全員が7月11日～10月18日の100日間、無事故・無違反の安全運転を達成しました。



理事長、後藤泰之学長、阿部圭一情報科学部長、学園、大学幹部、建設関係者らが出席して行われました。後藤淳理理事長が鍬（くわ）入れを行い、工事の安全を祈願しました。

愛工大祭



会場を笑いで包み込んだお笑いライブ

ージで「流れ星」、
「イムマシーン3号」の
コンビによるお笑いライブ
や女装コンテストの「ミ
スダンディー♀」等が
行われ、笑い声が絶えま

草キャンパスで開かれま
した。主会場のセントラ
ルパークでは、同好会な
どの模擬店、フリーマー
ケットのほか、特設ステ

「Shall We?」をテー
マに第四十九回愛
工大祭が十月十
十一日を中心

学生、生徒のアイデアや情熱に包まれた恒例の学祭、
体育祭が、学園設置校の愛工大、愛工大名電高校、愛工
大附属中学校でにぎやかに繰り広げられました。

せんでした。

また、メイン行事の一
つの各研究室や同好会な
どの研究成果を競う「工
科展」が愛和会館内で催
され、今回は昨年を上回
る十一団体が出展。鉄人
プロジェクトは、最新の
高さ一メートルを超す鉄人5号
を出展し、注目を集めま
した。十日の審査では、
自律走行二輪車から垂直
離着・テイルローター
機の研究が続いている
渡辺研究室が二年連続優
勝を果たしました。渡辺
修機械学科教授も駆けつ
け「学生の熱意が優勝を
もたらした」と、顔をほ
ころばせていました。



研究成果を競い合った工科展

愛工大名電高体育祭

スに続く開会式では、佐
藤忍校長が「気持ちのい
い汗をかいて、みんな

九月三十日、名
古屋市南区の日本
ガイシホールで行
われ、全校生徒が
六ブロックに分か
れて、日ごろの練
習の成果を競い合
いました。チアリ
ーディング部員に
よる華やかなダン

そのほかの研究
会、同好会なども
キャンパス内で、
作品展示、演奏会
などで日ごろの活動成果
を披露。その中で、昨年
の大学祭で、段ボールの
ミニ安土城を造り話題を
集めた建築研究会(La
base)が、「空間ア
ートプロジェクト」のテ
ーマで、空間に入った人
に好きなようにイメージ
を広げてもらおうと、
紙管(高さ約百八十センチ)
をつなぎ合わせ正方形に
囲った空間を制作。屋外
に設置し、大学祭に訪れ
た人たちを楽しませてい
ました。



選手の熱気に包まれた綱引き

体育祭を盛り上げよう
と呼びかけました。

幕開けは、今では体育
祭呼び物の「レインボー
フラッグ」。うっ伏せに
なった選手が、合図で、
ゴール地点に置かれた少
ない紙旗を猛ダッシュし
て取り合う迫力満点の競
技でした。また、力と力
のぶつかり合いとなった
綱引きは、どの選手も顔
を真っ赤にして奮闘して
いました。女子生徒出場
のブロック対抗・玉入れ
は、選手らのにぎやかな
歓声に包まれました。
クラブ対校リレーは、
コース途中で段ボール箱
をぐり抜けたり、先生
とジャンケンをするなど
趣向を凝らした種目で、
応援の保護者の笑いを誘
っていました。

愛工大附属中体育祭



チーム一丸の大縄跳び競技

十月一日、名電高と同
じ日本ガイシホールを会
場に、中高一貫の特色を
生かし中学生から高校生
までを含む合わせて六十
チームに分かれ、熱戦を繰
り広げました。開会式で
は、横地徹校長が「日ご
ろ鍛えた力を発揮して今
日一日頑張りましょう」
と激励。

今年には競技の前に全学
年からなる有志の女子生
徒によるダンスが披露さ
れました。この後、名電
高と同じ紙旗を奪い合う
「ガイシフラッグ」や一
本の棒を五人の選手が持
って走る「台風の目」の
ほか、「大縄跳び競技」
でチームワークを競い合
いました。保護者も大勢
駆け付け、力いっぱい心
援をしていました。

豊田市美術展で優秀賞など受賞

愛工大情報電子専門学
校情報工学科コンピュータ
グラフィックスコース
一年生の三人が、第四十
七回豊田市美術展（十
一月二十一日〜同二十九
日、豊田市民文化会館・
市美術館）のグラ
フィックデザイン
部門で、優秀賞等
を受賞しました。

三人は優秀賞の
田中信之君、新人
賞の石倉勇也君、
奨励賞の佐野和香
奈さん。二十九日
に市美術館講堂で
表彰されました。
コンピュータグ
ラフィックスコ
ースは毎年、学生の
教育効果につなが
ると市美術展グラフィ
ックデザイン部門へ積極
的に応募させています。
今年も全員が応募し、そ
のうち田中君ら三人が入
賞しました。



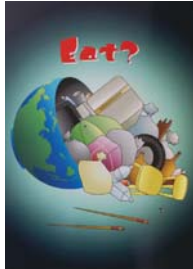
田中君
の作品は
「変動する南極 道に迷



う皇帝」。地球温暖化問
題をテーマに、えさを獲
りにいったものの、氷が
溶けて巣に帰れなくなり
途方にくれるペンギンで
訴えています。



石倉君
の作品は
やはり地球温暖化等の環
境問題をとらえた「暑い
クマ」。だれでも一目で
分かるようにと、「最近
暑くない？」とかき氷を
持つ北極グマで表現して
います。



佐野さ
んの作品
はごみ問題をテーマにし
た「Eat?」。お茶
碗に見たてた地球から様
々なごみがあふれ出ている
様子を通して、ごみ問
題をインパクトに表して
います。

三人は「自分たちの作
品が選ばれてうれしい」と
話していました。

栄冠

卓球ジュニアで世界3位

愛工大名電高卓球部
の森本耕平君（普通科
三年）が十月二十三日
（二十五日、東京体育
館で行われた「ITTF
ジュニアサーキット
ファイナル ジュニア
男子シングルス」に日
本代表選手として出場
し三位に輝きました。



森本君と今枝卓球部監督

「ジュニアサーキット
トファイナル」には、
欧州を中心に世界各地
で行われた二十五の大
会の成績により、上位
九人が自動的に出場で
きます。森本君は三大
会に出場、うちポルト
ガル大会で優勝し総合
九位に入り出場権を得
ました。「ジュニアサ
ーキットファイナル
ジュニア男子シング
ルス」では、第一ステ

ジで優勝し、決勝トーナ
メントに進出。同準決勝
でエジプトの選手と対戦
し互角に戦いましたが、
惜しくも敗れました。

森本君は、「ヴォルク
スワーゲン世界ジュニア
卓球選手権大会」（十二
月九日〜十六日、南米・
コロンビア）、「平成二
十一年度全日本卓球選手
権大会」（来年一月十二
日〜十七日、東京）にも
出場と、さらなる活躍が
期待されています。

卓球部監督の今枝一郎
教諭も「森本君は現在、
実力、能力とも兼ね備え
た今後も楽しみな選手で
す」と話しています。

スピーチコンテスト優勝

愛工大名電高
普通科二年の金
沢芳子さんが十
月二十四日、名
古屋外国語大学
で開かれた「第
二十二回中国語
スピーチコンテスト」で
優勝しました。

コンテストは、名古屋
外国語大学の主催で、▽



スピーチコンテスト
優勝の金沢さん

高校生の部（暗唱朗読大
会）▽大学生の部（弁論
大会）に分かれて、行わ
れました。大会では、事
前に出された演題の中か
ら好きな題材を選んで、
暗唱朗読します。時間は
約三分間で、多項目にわ
たつて厳しくチェックさ
れます。

金沢さんは昨年も出場
し、二位でした。今回は
優勝を目標に授業後、樋
口悦也教諭の指導を受け
て練習に励み、大会に臨
みました。

その結果、二十人の参
加者中、発音、表現力、
説得力、感情、制限時間
等で優れていた、として
優勝に輝きました。金沢
さんは「小学生から中国
語を習い始め、その努力
が優勝につながったと思
います。将来は語学力を駆
使し世界に羽ばたきたい」と
話していました。

地域、社会に開かれた大学、専門学校

愛工大、愛工大情報電子専門学校で社会人、市民を対象にした講座や教室が開かれ、定員を上回る応募者があるなど人気を呼んでいます。

愛工大

「社会人防災マイスター講座」社会人を防災専門家に養成する目的の講座です。後期講座（定員十人）が十月～来年八月まで、本学の本山キャンパス（名古屋市千種区）で開かれています。対象は、自治体、企業等で防災対策に係わっている社会人です。



社会人防災マイスター講座

第一回の十月六日は、学長代理の稲垣慎二副学長、本講座代表の正木和明地域防災研究センター長（都市環境学科教授）や受講生らが出席しての開講式、オリエンテーションに続き、本学の建部

謙治建築学科教授の「企業防災論」等の講義がありました。

講座修了者には、学校教育法に基づく「履修証明書」が交付されます。

「社会人のための組込みシステム入門講座」

デジタルテレビ、携帯電話など電子制御を必要とする製品に一般的に用いられている組込みシステム技術の基本を学ぶ、「社会人のための組込みシステム入門講座」が、十一月二十一日～十二月十二日まで本学八草キャンパスで行われました。

講座は、「組込みソフトウェア入門」、「組込みハードウェア設計入門—FPGA回路設計—」

（平成二十二年六月開講予定）、「メカトロニクス入門—二輪型倒立ロボット制御—」（同十一月開講予定）の三講座からなります。

初回講座は、組込みソ

フトウェア開発の経験のない人を対象にRTOS（μITSON）を用いた組込みソフトウェアの開発方法の基礎を勉強します。十五人の定員を超え応募者があり、今回は二十一人となりました。

初日は講義に先立ち開講式が八草キャンパスのエクステンションセンターで受講生のほか、本学から小嶋憲三副学長、担当の鈴木晋情報科学科教授らが出席して行われました。その後、講座が8号館・コンピュータ実験実習室でありました。



社会人組込みシステム入門講座

※両講座は、文部科学省の平成二十年戦略的大学連携支援事業として採択された本学を含む名古屋大、大同大、豊田高専四校提案の「工科系コンソ

シウムによるものづくり教育の拠点形成」推進事業の一つとして、各校と連携して実施されています。

愛工大情報電子専門学校

【中高年パソコン教室】

毎年、専門学校を会場に定期的に開かれている豊田市主催の「中高年齢者職業能力開発教室パソコンコース」が人気で、本年も定員いっぱいで開催されました。

パソコンコースは、豊田市が厳しい雇用情勢の中、中高年齢者の就労の機会を広げる手助けになればと、専門学校の協力で開催しています。受講料が無料で、専門講師、機器もそろっているため毎回、定員二十人を大幅に上回る申し込みがあるため抽選となる人気コースです。

本年は九月二十四日から十一月五日までの間、計六回開かれ、専門学校の教員が講師となり、パソコンの基本から活用編までを教えました。パソ



中高年齢者を対象とした「能力開発パソコンコース」受講の市民ら

熱心な受講生が多く、教室に早くから来て、前回の復習をしたり、講習で不明な点があると手をすぐに挙げて質問する人も多く、教員も感心していました。

愛工大名電高へ山口県議会から視察団

山口県議会文教警察委員会が10月28日、教育内容を調査視察するため訪れました。インターネット等を通して高校の進めている独創的な教育内容を知って、教育振興に役立てようと訪れました。

愛工大名電高校、愛工大
附属中学校のブース人気

愛知県私学協会主催の「2010愛知の私立学校（小・中・高）展」が十月十七日～十八日、名古屋市中区和区の市公会堂で開かれました。各私立学校の施設、教育内容、来年度入試概要等を広く保護者、児童・生徒らに紹介、私学への理解を深めてもらうのが目的で、県内の高校を中心に中学校、小学校計五十九校が参加。



保護者や児童・生徒らが詰めかけた名電高、附中ブース

開場してすぐに、会場に入りきれない保護者、児童・生徒の長い行列ができるほどの人気。名電高と附中の合同ブースでは、相談に訪れる人が絶えず、順番待ちもできるほどで、教職員も説明に追われていました。会場内では各校の制服展示もあり児童、生徒らが熱心に見ていました。

A-I-Tサイエンス大賞

愛工大名電高が優秀賞受賞

愛知、岐阜、三重、静岡県の高校生を対象にした愛工大開学五十周年記念「第八回A-I-Tサイエンス大賞」が十一月十五日、本学八草キャンパスで開かれました。

今年は、自然科学部門に十四校十六テーマ、ものづくり部門に六校九テーマのそれぞれ応募がありました。部門別に分かれステージ発表と、パネルや試作品、手作りの実験装置等々を展示し研究成果を競い合うパネル展示発表が行われました。

審査の結果、自然科学部門で安城農林、向陽、時習館の三高校、ものづくり部門で佐織工業、愛工大名電の二高校が優秀賞に選ばれました。各校には、トロフィーと記念品が贈られました。



A-I-Tサイエンス大賞・ものづくり部門で優秀賞に輝いた愛工大名電高

愛名会
便り

名古屋電

気学園の支援組織・愛名会と中部産業連盟共

催の「平成二十一年度講演会」が十一月四日、名古屋市中区の名古屋国際ホテルで、(株)デンソー取締役会長の深谷紘一氏(写真左)を講師に招いて、開かれました。

神尾隆愛名会会長、名誉会長の後藤淳理事長、竹内弘之中産連副会長があいさつした後、深谷会長が「技術と技能の融合で切り拓く未来」と題して、本年、創業六十周年を迎えたデンソーの歴史をはじめ、社風や経営の柱等について講演しました。

その中で、デンソーの歴史は順風満帆ばかりでなかったと述べ、創業間もないころ車も売れず、電気洗濯機からアイロンまで製造した話を挙げました。また、社風の「一人を基本とする経営」のもと、社内に入社社員を対象にした「技能養成所」をつくる傍ら、技能五輪参加等を通して人材養成、技能継承に積極的に取り組んできたことを語りまし



平成21年度講演会—「技術と技能の融合で切り拓く未来」



深谷氏の講演を真剣な表情で聞き入る愛名会、中産連会員ら

た。講演は二時間近くにも及びましたが、現在の厳しい経済状況下で企業の在るべき姿、方向性等に関して示唆に富む話も多く、約二百人の出席者は真剣な表情で聞いていました。深谷氏は東京工業大学を卒業後、一九六六年日本電装(九五年にデンソーに社名変更)に入社、生産技術部部长、取締役を経て二〇〇三年に社長就任、本年六月から会長を務めています。

また、社風の「一人を基本とする経営」のもと、社内に入社社員を対象にした「技能養成所」をつくる傍ら、技能五輪参加等を通して人材養成、技能継承に積極的に取り組んできたことを語りまし

編集後記

▼二〇〇九年は皆さんには、どんな年だったでしょう？▼激動の一年ではなかったでしょうか。まず、政界。流行語大賞にもなった「政権交代」。そして経済界。政界同様、不透明でなかなかすっきりといきません▼しかし、名古屋電気学園にとっては、大きな節目の年となりました。それは設置校の一つ、愛工大が開学五十周年を迎え、記念式典が厳粛に、華やかに挙行されたことです▼大学の歴史を振り返ると、それは学園の歴史でもあります▼「電気の時代がくる」と創立者・後藤喬三郎先生により、大正元年に産声をあげた「名古屋電気講習所」が全ての始まりです▼現在に至るまで戦争の時代もありました。道のりは決して平坦ではありませんでした。様々な難局を乗り越えられてきたのは、学園に係わってきた幾多の先人の労苦があったと言えます▼先の学園の平成二十一年度物故者法要で、後藤淳理事長もこのことに触れていました。これは忘れてはならないことだと思います。(久)